
2019 年度河川技術に関するシンポジウムおよび「河川技術論文集 第 25 巻」論文募集

河川部会は、「従来の河川の概念にとどまらず、水・土砂・物質循環系としての広義の河川と、人だけでなく様々な生物との関係をより良いものとしていくための実践的技術の総体」として河川技術をとらえ、産学官を問わない広い裾野から精力的に行われる研究や技術開発が河川や流域の現場に広がることで現状をより良いものへと変えていき、そのことが国民や流域住民から肯定的に認知されることで、河川技術の発展とその現場への適用がさらにいっそう促進されるという好循環の形成に貢献することを目指しています。それを実現するために河川部会は、水工学委員会の三部会（基礎水理部会、環境水理部会、水文部会）との連携協力を推進するとともに、学術と技術との橋渡し、官・学・民の連携、従来の河川工学以外の河川に関わる学術分野との学際領域への展開など、河川技術に求められる様々なインターフェースとしての役割を担うことを志向しています。

その一環として、河川部会では 2019 年度も標記シンポジウムを下記のとおり企画いたしました。「河川技術論文集」も今回で 25 巻となり、これまで蓄積されてきた技術を活かし、さらに河川技術が実践の場でより機能的に発揮されるよう、研鑽してきたいと考えております。ふるってご参加いただきますようご案内申し上げます。

・開催期日

2019 年 6 月 12 日（水）・13 日（木）

・開催場所

東京大学農学部 弥生講堂（文京区弥生 1-1-1）

・参加費

一般（会員）6,500 円、一般（非会員）8,000 円、学生（会員・非会員）4,000 円

※いずれも論文集（冊子＋電子版 CD）代を含む

※冊子は白黒印刷ですが、電子版 CD にはカラー原稿を PDF 形式で登載します。

・登載に係る著者負担金

要旨査読・本文査読による審査を経て、河川技術論文集に登載される論文等の著者には、参加費とは別に 1 編につき 12,000 円を負担していただきます。

・シンポジウム募集課題

本シンポジウムは、1 つの会場で特定の課題について全体で議論を進めるオーガナイズドセッションと、ポスターセッションから構成されます。以下のように、特定課題および一般課題について論文等を募集します。

「論文等」には、後述する投稿ジャンルに示すように、論文、総説、報告があります。河川部会では、その目的に沿って、河川技術が適用される現場での取り組みに根ざした実際の知見の共有も大切に考えており、「報告」も論文や総説と同等に重視されます。

特定課題、一般課題とも「河川技術を主題とし、あるいは生物・生態、社会経済などの周辺領

域の論文等については河川技術と密接な関係を有し、いずれも河川整備や管理に資するもの」、また「実際の事象に基づいた考察がなされ、研究された論文等であること。たとえば、現地を対象とした観測・調査、数値計算や模型実験などから見出された知見を基に、問題設定がなされ研究が展開されている論文等であること」を投稿の条件とします。

また、西日本豪雨災害の他、近年、死者の出る災害が続いております。このため、特定課題の他に、これらの被害実態の解明や災害対策・被害軽減策に繋がる河川技術に関する論文・報告に関する投稿も期待しております。

(1) **特定課題 1**：「河川管理や河川計画のための水文・砂防・河川・海岸分野の境界領域に関わる河川技術」

河川部会では、河川技術の発展とその現場への適用を促進することを目指して、従来の河川工学以外の河川にかかわる学術との学際領域への展開など、河川と境界領域に求められる様々なインターフェースとなる技術を追求してきました。河川部会が活動してきたこの 20 年ほどの間に河川技術を取り巻く観測や解析など実態把握に関する技術は大きく進歩してきました。しかしながら、昨今の様に豪雨などにより未だ大きな災害が続けて発生する状況が続いております。

本年度は河川部会の理念に立ち返り、流域全体として河川管理や河川計画を行う技術の発展のために、現象の前提条件や境界条件（量と質）、領域間一体的な解析などに関係する境界領域における河川技術に関する論文・報告を募集します。例えば、山地部からの土砂・流木等の生産・流出と河川領域への堆積・集積などへの影響、観測技術を活かした山地からの流出量算定の検証や河口域における砂州の変形や流出などについて、実現象の課題、実態把握や観測に基づく視点から捉えた新しい河川の管理や計画に資する技術に関する論文を募集致します。これらの境界領域での各分野の技術の融合について、特に砂防・水文・海岸分野から河川分野へ、また河川分野からこれらの分野への提案や提言を含む論文投稿を期待します。

(2) **特定課題 2**：「大規模洪水時の水理現象把握と今後の河川技術の展開の方向性」

近年、毎年のように全国のどこかで豪雨による水害が発生しています。これらは気候変動に起因するものと推測され、今後も台風の強大化や豪雨頻度の高まりに伴う水害が懸念されています。こうした水害をふまえ、「大規模氾濫に対する減災対策のための治水対策のあり方について」や「中小河川等における水防災意識社会の再構築のあり方について」等が打ち出され、河川の計画規模や現況の安全度を超過する外力に対し、河川整備だけでは対処できない場合に備えた減災への取り組みが全国で進みつつあります。

一方、近年の大規模洪水は、現状の河川整備や管理内容を振り返るうえで貴重な材料を与え、洪水時の河道内や氾濫原における水理現象の実態を把握する機会を得たと考えられます。例えば、水位が計画高水位を超過するような洪水における河岸、堤防等への影響、固定化していた砂州のフラッシュによる攪乱等の発生や環境変化、流下阻害となっていた樹木群の流出、流木を伴う洪水流やその被害につながる現象、避難などの減災対策に資する氾濫流の特徴など、これまでは生起頻度が低いために十分に把握できなかった大規模洪水の現象把握や分析を進め、その知見を俯瞰して、今後の河川技術の展開を考える節目に来ていると言えるのではないのでしょうか。

特定課題 2 では、近年の大規模洪水にみられた河道内および氾濫原の水理現象に関する実

態把握等に関する事例分析と、それらを踏まえた今後の河川技術の課題設定や研究・技術開発の方向性の提案等に関する論文・報告を募集いたします。

(3) 一般課題

一般課題の論文等は、河川部会活動の基盤となる重要なものです。特定課題以外の、河川部会の目的に沿った論文等を幅広く募ります。

・論文集投稿ジャンル

論文等には次のジャンルがあります。いずれも、要旨、全文の2段階審査を実施します。審査は河川技術論文集編集委員会により行います。論文審査要領については、土木学会水工学委員会河川部会のホームページをご覧ください。なお審査は、原則として、投稿者が選択したジャンルを前提に行いますので、投稿に際しては、以下の各ジャンルの趣旨を十分踏まえて、ジャンル選択を行ってください。

(1) 論文（理念に関する論文を含む）

論文は、河川技術上新しい事実の発見や解釈を含むものであり、科学的な手続きを踏んで得られた結果に対して論理的に筋の通った考察が加えられているもの。また、理念に関する論文とは、新しい河川整備・管理に資する理念や提案であり、新規性・有用性があり、論理的に筋の通ったもの。

河川部会の目的、特長に則り、理念に関する論文の投稿も重視しています。

(2) 総説

これまでに公表された当該分野に関する事実や論文に含まれた多くの知見を幅広く総括することによって河川技術に関する課題を比較考察し、今後の研究及び技術開発の方向性を考察した論文

(3) 報告

調査・計画・設計・施工・現場計測・研究プロジェクトなど河川技術が適用される現場での取り組みに関する報告で、河川技術的に有益な内容を含むもの。論文に求められる要件を満たす途上ではあるが、報告の価値があると考えられる事例研究の成果も、このジャンルに積極的に投稿ください。

・発表形式

特定課題に投稿された論文等は、オーガナイズドセッションにて発表していただくこともあります。その場合の発表形式は各課題のオーガナイザーより連絡いたします。それ以外の論文等は、一般課題と同様の発表形式になります。

一般課題については、ポスター発表が基本となります。その上で、発表者（の一部）を交えた議論等の場を設ける場合があります。その場合には、事前に実施方法を連絡いたします。

・投稿資格

河川の技術に求められるさまざまなインターフェース的側面を追求するという河川部会の趣旨から、非土木学会員でも投稿は可能です（発表者、共著者とも）。また、同一著者の論文等への複数投稿は認めますが、発表は一人一編に限ります。

・ 要旨による応募方法

応募方法は、2018（平成30）年12月上旬までに河川部会ホームページに掲載しますのでご覧ください。同ホームページに掲載された形式で下記内容(1)から(6)を記載していただきます。応募の言語は、日本語以外に英語も受け付けます。ただし、連絡等のやりとりは日本語を基本にすることを御了承願います。

河川部会ホームページ(URL) : <http://committees.jsce.or.jp/hydraulic01/>

(1) 題目

(2) 要旨

「(a) 目的」、「(b) 内容」、「(c) 得られた成果」に分けて、**要旨全体を1000字以内で記述してください（英文の場合は、400ワード以内）**。この**字数（あるいはワード数）制限を厳守してください**。要旨は文章のみとします（図面、写真は不可）。また、既往の関連論文がある場合には論文名および論文集名を別記し、投稿論文等と既往の関連論文の違いを明確に要旨に記述するようにしてください。第1段階審査は、この論文要旨をもとに行います。

(3) 応募する課題：(特定課題 or 一般課題)

(4) 投稿のジャンル：(総説 or 論文 or 報告)

(5) 著者、発表者、発表者所属

(6) 連絡先：(代表者の氏名、郵便番号、住所、電話、FAX番号、Eメールアドレス)

・ 応募締切り

2019年1月25日（金）17:00

・ スケジュール

要旨による応募に対して第1段階審査を行い、2月末に代表者に審査結果をお送りします。全文原稿は、A4用紙で4ページあるいは6ページ（様式は河川部会ホームページに掲載）で、2019年4月2日（火）17時を提出期限とします。提出された論文等は、編集委員会で審査し、期日までの修正を求める場合や、掲載を見送る場合があります。なお、シンポジウムでの発表形式は第2段階審査後5月中旬以降にお知らせいたします。シンポジウムのプログラムおよび発表形式は、河川部会のホームページに掲載します。

・ 「河川技術論文賞」

下記に示す観点で優れた成果を上げた論文・報告・総説の著者を表彰し、もって河川技術の進展を促すことを目的とした「河川技術論文賞」を創設しました。なお、これまでとおり優秀発表者賞の表彰も行います。

独創性に富む成果を挙げたもの、将来の展望を与える理念・提案や研究及び技術開発の方向性を提示したもの、および河川技術が適用される現場で困難な研究・技術開発を成し遂げた貴重な成果が盛り込まれているもののいずれかに該当すると認めるとともに、その主題と成果に大いなる発展性を備え、河川技術の進歩、学際的な展開、体系化および普及に顕著な貢献をなしたと認めうる論文・報告・総説。

◆重要なお知らせ：河川部会の新たな取り組みとご協力のお願い

「河川技術に関するシンポジウム」は、河川に関わる重要な動向を把握し、河川技術を発展させていくための情報・意見交換を行う場として活用されています。河川部会は、シンポジウムのさらなる充実をはかるべく、継続的な取り組みを始めました。

その一環のひとつとして、河川技術論文集の採択の考え方の再徹底を行うこととしました。河川技術論文集の採択においては、河川技術の発展と現場への普及を重視してきました。それが上記した場としてシンポジウムを機能させるのに不可欠な要素であるからです。こうした重要な観点でありながら、近年、今後の実務への展開を強く意識した特に先駆的で独創性の高い論文等の採択が、必ずしも十分でないとの旨のご指摘を複数受けました。

そこで、論文等採択の査読にあたり、上記観点について十分に踏まえることを再徹底いたします。この取り組みを、河川技術論文集をより充実させること繋げていくために、投稿される皆様におかれましては、特に先駆的で独創性が高い内容を含む場合には、河川技術の発展と現場への普及や今後の実務への展開に対する投稿論文等の意義、位置づけ、関わりなどについて、これまでに増して十分な記載いただくようご配慮ください。ご協力、よろしくお願い申し上げます。

・ 問合せ先

河川部会長 渡邊 明英

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1-15-6

株式会社 東京建設コンサルタント 環境防災研究所

TEL:03-5980-2637 FAX: 03-5980-2604

e-mail : watanabe-ak@tokencon.co.jp